

パシル点滴静注液 300mg
パシル点滴静注液 500mg
パシル点滴静注液 1000mg

【この薬は？】

販売名	パシル点滴静注液 300mg PASIL INTRAVENOUS DRIP INFUSION 300mg	パシル点滴静注液 500mg PASIL INTRAVENOUS DRIP INFUSION 500mg	パシル点滴静注液 1000mg PASIL INTRAVENOUS DRIP INFUSION 1000mg
一般名	パズフロキサシンメシル酸塩 Pazufloxacin Mesilate		
含有量 (1袋中)	390.6mg/100mL (パズフロキサシンと して300mg)	651.0mg/100mL (パズフロキサシンと して500mg)	1302.0mg/200mL (パズフロキサシンとし て1000mg)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・ この薬は、ニューキノロン系注射用抗菌剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・ この薬は、細菌の増殖に必要な酵素を阻害することにより、殺菌作用を示します。
- ・ 次の病気の人に医療機関で使用されます。

<適応症>

敗血症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎、肺膿瘍、慢性呼吸器病変の二次感染、複雑性膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎（急性症、慢性症）、腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎、肝膿瘍、子宮付属器炎、子宮旁結合織炎

<適応菌種>

パズフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属、レジオネラ属、バクテロイデス属、プレボテラ属

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・過去にパシル点滴静注液に含まれる成分で過敏症のあった人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・小児

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・キノロン系抗菌剤で過敏症のあった人
- ・本人または両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹などのアレルギー症状を起しやすいつ体制を有する人
- ・腎臓に障害のある人
- ・心臓・循環器系機能に障害のある人
- ・てんかんなどのけいれん発作をおこすことがある人、または過去にてんかんなどのけいれん発作のあった人
- ・重症筋無力症の人
- ・大動脈瘤や大動脈解離のある人、過去に大動脈瘤や大動脈解離のあった人、大動脈瘤や大動脈解離のあった人が血縁にいる人、大動脈瘤や大動脈解離の危険因子（マルファン症候群など）のある人
- ・高齢の人

○この薬によりショックやアナフィラキシーがおこることがあるので、既往歴などについて医師に伝えてください。

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○大動脈瘤や大動脈解離のある人、過去に大動脈瘤や大動脈解離のあった人、大動脈瘤や大動脈解離のあった人が血縁にいる人、大動脈瘤や大動脈解離の危険因子（マルファン症候群など）のある人は、画像検査が行われることがあります。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●使用量および回数

使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

通常、成人の使用する量および回数は、次のとおりです。

[敗血症、肺炎球菌による肺炎、重症・難治性の呼吸器感染症（肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染に限る）以外の感染症]

1回量	500mg（パズフロキサシンとして）
使用回数	1日2回、30分～1時間かけて点滴静注する

[敗血症、肺炎球菌による肺炎、重症・難治性の呼吸器感染症（肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染に限る）]

1回量	1000mg（パズフロキサシンとして）
使用回数	1日2回、1時間かけて点滴静注する

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・大動脈瘤、大動脈解離があらわれることがあるので、腹部、胸部、背部に痛みなどの症状があらわれた場合は、ただちに受診してください。これにより画像検査が行われることがあります。
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人は、この薬を使用することはできません。妊娠の可能性があるときは、すぐに医師に相談してください。
- ・授乳を中止してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
偽膜性大腸炎 ぎまくせいだいちょうえん	腹痛、血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る、発熱、頭痛、吐き気、冷汗が出る、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる
錯乱、幻覚等の精神症状 さくらん、げんかくとうのせいしんしょうじょう	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、実際には存在しないものを存在するかのように感じる
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下

アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害 アキレスけんえん、けんだんれつとうのけんしょうがい	アキレス腱の痛み・はれ、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射した指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
大動脈瘤 だいどうみやくりゅう	声がれ、食べ物や水が上手く飲み込めずむせる、息苦しい、食べ物が飲み込みにくい、腹痛、胸の痛み、背中の痛み
大動脈解離 だいどうみやくかいり	激しい腹痛、激しい胸の痛み、激しい背中の痛み

同類薬（他のニューキノロン系抗菌剤）であらわれる、特にご注意ください
重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。この薬でもあらわれ
る可能性があります。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した
主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般
的ですが、このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
PIE 症候群 ピーアイイーしょうこうぐん	発熱、咳、息切れ、息苦しい
重症筋無力症の悪化 じゅうしょうきんむりよくしょうのあつか	まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える、 筋肉の疲労感、食べ物が飲み込みにくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	むくみ、体がだるい、疲れやすい、力が入らない、体がかゆくなる、発熱、冷汗が出る、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、脱力感、顔や手足の筋肉がびくつく、ふらつき、けいれん
頭部	頭痛、実際には存在しないものを存在するかのように感じる、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、一時的にボーっとする、意識の低下、めまい、意識の消失
顔面	顔面蒼白、鼻血、血の気が引く
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ、まぶたが重い、まぶたが下がる、物がだぶって見える
口や喉	吐き気、喉の痛み、歯ぐきの出血、喉のかゆみ、唇や口内のただれ、咳、声がれ、食べ物や水が上手く飲み込めずむせる、食べ物が飲み込みにくい
胸部	動悸、息苦しい、息切れ、胸の痛み、激しい胸の痛み
腹部	食欲不振、腹痛、お腹がすく、激しい腹痛
背中	背中の痛み、激しい背中の痛み
手・足	手足が冷たくなる、手足のこわばり、手足のしびれ、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える、手足のふるえ、アキレス腱の痛み・はれ、歩行障害、注射した指の関節を曲げにくい、注射し

部位	自覚症状
	た指の関節を伸ばしにくい、注射した指の関節が曲がらない
皮膚	皮膚が黄色くなる、あおあざができる、全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
筋肉	筋肉の痛み、筋肉の疲労感
便	血の混ざったゆるい便が出る、ゆるい便が出る
尿	尿量が減る、尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる

【この薬の形は？】

販売名	パシル点滴静注液 300mg	パシル点滴静注液 500mg	パシル点滴静注液 1000mg
性状	無色澄明の液剤		
形状			

【この薬に含まれているのは？】

販売名	パシル点滴静注液 300mg	パシル点滴静注液 500mg	パシル点滴静注液 1000mg
有効成分	パズフロキサシンメシル酸塩		
添加物	メタンスルホン酸、塩化ナトリウム		

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
 発売会社：大正富山医薬品株式会社 (<http://www.taishotoyama.co.jp>)
 メディカルインフォメーションセンター
 電話：0120-591-810
 受付時間：9時～17時30分（土・日・祝日、当社休日を除く）
 製造販売会社：富士フィルム富山化学株式会社